

単元名 音のスケッチ(4)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 音型の反復や重なりについて、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、音楽の仕組みを用いて簡単な音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) 拍やリズムの反復、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくなかに思いをもったり、自分たちのつくった音楽と共通するところや、曲の楽しさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 音型を組み合わせる音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070305_001

【教材名】「ウィーンの音楽時計」(鑑賞) 「おしゃべり音楽時計」(歌唱 音楽づくり) (P. 56～P. 57)

【準備等】範唱CD, 鑑賞CD, 木琴, 鉄琴, 鈴, トライアングルなどの打楽器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「ウィーンの音楽時計」を鑑賞したり「おしゃべり音楽時計」を歌や楽器で演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ウィーンの音楽時計」を聴き、何を表している曲かを当てる。 ★時計の音楽の おもしろさを あじわおう。 ○楽器の音や聴こえた音型を発表し合う。 ○発表した音色や音型を意識しながら、もう一度聴く。 ○旋律が重なり合う面白さを感じ取りながら「おしゃべり音楽時計」を歌ったり楽器で演奏したりする。 <ul style="list-style-type: none"> 主旋律を歌詞唱する。 鉄琴パートを楽器や歌で繰り返し演奏する。 主旋律と鉄琴パートを合わせて演奏する。 <p>3～4 自分たちの音楽時計をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽づくりに必要なリズムの確認をする。 ★みんなの 音楽時計をつくろう <ul style="list-style-type: none"> ア～エのリズムパターンを繰り返し打つ。 ○グループで音楽時計をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> パート決めをする。 それぞれの音型の組み合わせ方や重ね方を工夫する。 ○中間発表をし、グループの音楽時計を仕上げる。 <ul style="list-style-type: none"> 各グループの発表を聴き合い、気付いたことや面白かったことなどを伝え合う。 中間発表を振り返り、各グループで仕上げる。 ○発表する。 ○もう一度「ウィーンの音楽時計」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> 気付いたことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 最近では、秒針の無い時計も多い。秒針のある時計を準備しておき、針の動く音や動きの面白さをつかませるとよい。 初めは、教科書を見せずに鑑賞させるとよい。 トライアングルなど、児童が知っている楽器の音を発表させる。また、「チクタク」「キンコンカンコン」など聴こえた感じを言葉で発表させる。 刻んでいるリズムに合わせて身体表現をさせてもよい。楽器の実物を見えるようにしておくとうきやすい。 「汽車は走る」の「ア」「イ」のパートと同じ構造であることを確認する。 【共通事項】音楽の縦と横との関係 【評】時計を表す音型の反復や重なりについてそれらが生み出す面白さなどに関わらせながら歌や演奏で表現する活動を通して「知識」を評価する。 鍵盤の位置を確認する。 トライアングルや鈴などの楽器の奏法を確認する。 全員分の楽器が準備できない場合は、指などを使って練習させる。 拍を意識してリズムを打たせる。 教科書P. 57の「えんそうのれい」を参考に、始め方や終わり方を工夫させる。 強弱や繰り返す回数などを決めさせる。 【共通事項】反復 強弱 【評】音型の反復や重なりなど、音楽の仕組みを用いて簡単な音楽づくりをする活動を通して「技能」を評価する。 他のグループの演奏を聴いて、面白かったところやよかったところを自分たちのグループの演奏に取り入れさせるとよい。 【評】音型を組み合わせる音楽づくりをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 自分たちがつくった音楽時計との共通点を見付けながら聴かせる。 【評】拍やリズムの反復、強弱を聴き取り、自分たちのつくった音楽と共通するところや、曲の楽しさを見いだして聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】